

生活単元学習学習指導案

授業Ⅱ

あさひ小学級5組 7名 指導者 三浦 和也

本授業は、以下の検証を行うものである。

コミュニケーションの視点に絞ってプレ体験を行うことは、子供が学習意欲を持続させ、自らの課題を解決しようとする「学びに向かう力」を育てるための手立てとして有効であったか。

1 単 元 遠くの町へ行こう

2 目 標

友達と一緒に、校区から遠く離れた施設に行くことを楽しみに事前学習をしたり、校外学習当日は、公共の交通機関や施設を利用したりすることで、娯楽や余暇の過ごし方の可能性に広がりをもたせ、これまで学習したことを生かし、新たな活動を行うことのよさに気付くことができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 交通機関の利用や買い物の仕方、公共施設での過ごし方を理解している。 ○ 交通機関の利用や買い物をしたり、写真や絵、言語で活動を振り返ったりすることができる。	○ 楽しい校外学習になるように、交通機関の乗り継ぎの仕方や公共施設での過ごし方を考え、行動している。	○ 科学館・県庁に行くことを楽しみに事前の準備学習をしたり、当日は、科学館や食堂での活動を楽しんだりしようとしている。

4 単元について

(1) 単元について

これまで、2年生以上の子供は、昨年度1年間に3回の校外学習を経験している。その中で、バスに乗って学習する楽しさや校外に出て学習する楽しさを感じることができた。この体験から、子供たちは、「もっといろいろな場所に行ってみたい。」「自分でバスに乗れるようになりたい。」「と校外で学習することのよさを感じ始めている。一方で、1年生や新しく入級した子供は、楽しみにしているが、校外での学習の経験が少なく不安な思いももっている。

そこで、本単元では、これまで身に付けたバスの乗降の仕方やマナー等を更に発展させ、公共交通機関であるバスを利用し、バスを乗り継いで、より遠い場所に移動する活動を設定する。活動場所は1年生の子供たちにも興味関心の高い科学館と以前お世話になった先生が勤務する県庁に設定することで、子供が意欲的に取り組むとともに、2年生以上は訪れたことのある科学館であることで活動の見通しをもちやすくなると考えた。科学館での活動を楽しむとともに、体験することの楽しさや活動の場が広がることのよさを感じることができるようになりたい。また食堂において、昼食を自分で選び購入する買い物学習や、移動の際の安全のきまりや公共の施設を使うときのマナーを考える活動などを設定することにより、他の単元で身に付けた力を繰り返し生かすことができるようにしたい。このような活動を通して、子供たちは教科等で学習した力を発揮したり、新たな課題を発見したりして、さらに学習を深めることができるものとする。また、実生活での実践へと広がりをもち、そのことが「学びに向かう力」の育成につながっていくものとする。

(2) 子供について

	A (1年)	B (1年)	C (2年)	D (2年)
	E (4年)	F (6年)	G (6年)	
興味・関心 校外学習への	バス通学のため、バスの乗り方が分かり、校外学習を楽しみにしている。	昨年度の写真を見ながら「楽しそう。」「僕も行きたい。」と言い、校外学習を楽しみにしている。	昨年度の写真を見せると笑顔を見せ、校外学習を楽しみにしている。	校外学習に行くことを告げると大喜びし、実施日を答えることができる。
	昨年度の写真を見て、「いいな、僕もみんなで行きたい。」と言い、校外学習を楽しんでいる。	「昼食では好きなものを選ぶことができるよ。」と言い、校外学習を楽しみにしている。	「校外学習ではバスに乗って楽しいところに行くよ。」と言い、校外学習を楽しみにしている。	
方や表現の方法 他者との関わり	積極的に自分の思いを言葉に出して伝えようとする。質問の意味を分からずに答えることがある。	自分の思いを伝えることができるが、苦手である。質問に答えることはできるが、相手に質問をすることは難しい。	自分の思いをうまく伝えることが難しく、単語で話すことが多い。質問にはうなずきで答えることはできる。	大勢の前で自分の思いを伝えることが苦手である。発音が明瞭でないため、相手に伝わらないことがある。
	人前で話すことに苦手意識がある。練習を行い見通しをもつことで、相手に話すことができる。	自分の思いを伝えることはできるが、大勢の前ではうまく伝えることができないことがある。	大勢の前でも自分の思いを伝えることができる。気持ちが高ぶると、うまく伝えることができないことがある。	

(3) 指導について

本単元では、こうした子供たちの実態をふまえ、科学館への興味・関心を高めるとともに、科学館へ行く計画や準備を通し、主に主体的に活動を行うための学習を展開する。具体的には、これまでの学習や日常生活で学んだことを活用して公共の交通機関の利用の仕方を身に付け、施設を利用する際のきまりを確認したり、買い物学習などの準備をしたりする活動を展開する。科学館では、自分のことは自分でできるように事前の学習を想起させ、見学後は自分でできたことを写真やVTRを使って振り返る活動を行い、できたことを大いに称賛し、日常生活で活用することができるように意欲を喚起する。

5 指導計画（総時数 14 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動	評価規準				時間	基盤となる 資質・能力		
		A（1年）	B（1年）	C（2年）	D（2年）		言語	情報	問題
		E（4年）		F（6年）					
導入	1 バスを乗り継いで科学館や県庁に出掛けることを知る。	態：映像を観て、科学館や県庁に出掛けることに意欲をもつ。	態：映像を観て、科学館や県庁に出掛けることに意欲をもつ。	態：映像を観て、バスを乗り継いで出掛けることに意欲をもつ。	態：映像を観て、バスの乗り換えに気付き、自分の考えを発表しようとする。	1	ク		
		態：映像を観て、バスの乗り換えに気付き、自分の考えを発表しようとする。		態：映像を観て、これまでの学習を思い出し、意欲的に話すそうとする。					
展開	2 科学館や県庁に行くための準備や練習をする。 ○ 科学館の施設を調べる。 ○ 活動計画を立てる。 ○ 科学館までの行き方を考える。 ○ バスの乗り方の練習をする。 ○ 昼食を買う練習をする。（本時）	知：公共の場での過ごし方がわかる。 店員に注文やお礼の挨拶をすることができる。 思：つくし手帳を使って、活動計画を立てることができる。 態：楽しみながら準備や練習をしようとする。	知：公共の場での過ごし方がわかる。 店員に自分の注文を伝えることができる。 思：つくし手帳を使って、活動計画を立てることができる。 態：楽しみながら準備や練習をしようとする。	知：みんなと一緒に公共の場で過ごすことができる。 教師と一緒に昼食の注文や受け取り・支払いができる。 思：つくし手帳を使って、活動計画を立てることができる。 態：本時の活動に見通しをもち、準備や練習をしようとする。	知：公共の場での過ごし方がわかり、みんなと一緒に過ごすことができる。 教師が言葉掛けをすることで昼食を買うことができる。 思：だれとどこを見学するかをワークシートに書くことができる。 態：友達と協力しながら準備や練習をしようとする。	12	ケ	テ	ホ
		知：公共の場での過ごし方がわかり、みんなと一緒に過ごすことができる。 教師が言葉掛けをすることで昼食を買うことができる。 思：だれとどこを見学するかをワークシートに書くことができる。 態：友達と協力しながら準備や練習をしようとする。		知：マナーを守り、公共の場で過ごすことができる。 二度のプレ体験を通して昼食を買うことができる。 思：ワークシートに活動計画を書くことができる。 態：本時の活動に見通しをもち、準備や練習をしようとする。					
終末	4 科学館や県庁に出かけたときのことを振り返る。	思：楽しかったことや出来事を絵に表し発表できる。	思：楽しかったことや出来事を絵に表し発表できる。	思：楽しかったことや出来事を友達の前で発表できる。	思：楽しかったことや出来事を絵日記に表し、発表できる。	1	コ		
		思：楽しかったことや出来事を絵日記に表し、発表できる。		思：楽しかったことや出来事に由を付けて発表できる。					

6 本 時（6／14）

(1) 目 標

メニュー表を見たり、買い物のプレ体験をしたりすることを通して、自分の食べたいものを選び、昼食を買うことができる。

(2) 評価規準

A（1年）	B（1年）	C（2年）	D（2年）
E（4年）	F（6年）	G（6年）	
店員に注文やお礼の挨拶をすることができる。	店員に自分の注文を伝えることができる。	教師と一緒に昼食の注文や受け取り・支払いができる。	教師が言葉掛けをすることで昼食を買うことができる。
教師が言葉掛けをすることで昼食を買うことができる。	二度のプレ体験を通して昼食を買うことができる。	一度目のプレ体験で改善点に気付くことができる。	

(3) 指導に当たって

導入では、昨年度の写真を見る活動を設定することで、昼食を買うことができるようになりたいという気持ちを喚起することができるようにする。また、「すること」を短く子供が分かりやすい言葉で確認を行うようにすることで、子供が見通しをもって活動に参加することができるようにする。

展開では、メニューを拡大した写真を黒板に掲示し、子供が自分の食べたいものを探すことができるようにする。また、店員と客に分かれて、昼食を買うプレ体験を行うことで、子供が買い物の仕方を身に付けることができるようにする。その際、タブレットを活用し活動の様子を動画で撮影し振り返ることで、自分や友達の活動の様子を見て、課題に気付くことができるようにする。さらに2度目のプレ体験で、課題を提示することで自らの課題を解決することができるようにする。

終末では、次時の学習内容を学習計画表で確認することで、子供が見通しをもてるようにする。また、チェックシートで、「のびるちゃんメーター」に丸印を書き自己評価をすることで、活動における自分の姿を振り返ることができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	8	1 食堂や昼食時の写真を見る。 [広い食堂だね。 ラーメンを食べているね。 カレーを食べたいな。 たくさん人がいるね。] 2 本時のめあてをつかむ。 [お昼ご飯を 買えるように なるう。] 3 本時で「すること」の確認をする。 [① メニューを決める。 ② 買い方を知る。 ③ 買う練習をする。 ④ つくし手帳を確認する。]	○ 昨年度の写真を見る活動を設定することで、昼食を買うことができるようになりたいという気持ちを喚起することができるようにする。 ○ 「すること」を短く子供が分かりやすい言葉で確認を行うようにすることで、子供が見通しをもって活動に参加することができるようにする。 ○ メニューを拡大した写真を黒板に掲示することで、子供が自分の食べたいものを探すことができるようにする。
調べる	30	4 買うメニューを決める。 [カレーがいいな。 とんこつラーメンとみそラーメンどっちにしようかな。 大盛りうどんにしよう。] 5 買い方を知る。 6 買う練習をする。 [ラーメンは500円だね。 練習の時と値段が違うぞ。 売れ切れのときはどうしたらいいのかな。] 7 つくし手帳を確認する。	(問) 店員と客に分かれて、昼食を買うプレ体験を行うことで、子供が買い物の仕方を身に付けることができるようにする。 ○ タブレットを活用し活動の様子を動画で撮影し振り返ることで、自分や友達の活動の様子を見て、改善点に気付くことができるようにする。 ○ 2度目のプレ体験で、課題を提示することで、自らの課題を解決することができるようにする。 ※ メニュー表を見たり、買い物のプレ体験をしたりすることを通して、自分の食べたいものを決め、昼食を買っている。(プレ体験)
まとめる・生かす	7	8 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。 [お昼ご飯の買い方がわかったぞ。 つくし手帳が完成したから、次は出発だ。] 9 本時の学習をチェックシートで振り返る。	○ 次時の学習内容を学習計画表で確認することで、子供が見通しをもてるようにする。 ○ チェックシートで、「のびるちゃんメーター」に丸印を書き自己評価をすることで、活動における自分の姿を振り返ることができるようにする。

體育科學學習指導略案

あさひ子学級1組	4名	指導者	出未淳一郎
あさひ子学級3組	4名	指導者	中野 恵美

本授業は、以下の検証を行うものである。

様々な運動（遊び）を通して、多様な動きを身に付けるために、子供一人一人が課題解決の見通しをもち、進んで運動に取り組むための手立ては有効であったか。

- 1 単 元 ぴよんぴよん こころろ にんじゃランド（領域名「体づくり運動」）
2 指導計画（総時数6時間） ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

課程		主 な 学 習 活 動 【評価規準】								時間	基礎となる資質・能力 言語 情報 問題		
一 次	評価規準	1 オリエンテーション ・体づくり運動の目標や学習計画を知り、体づくり運動に必要ないろいろな動きを体験する。(試しの運動)								1			
		A (1年) 順番を守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	B (1年) 簡単な動きを守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	C (2年) 用具の簡単な動きを守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	D (2年) 順番を守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	E (3年) 簡単な動きを守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	F (3年) 簡単な動きを守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	G (4年) 簡単な動きを守りながら仲間と動物の安全な動きを体験する。【態】	H (5年) 運動のきり進んだ動きを体験する。【態】				
二 次	評価規準	2～5 学習の進め方を確認し、運動に取り組む。								4	ク チ	ネ ヒ	
		2 体ほぐしの運動では、手軽な運動や律動的な運動を楽しむ。 3 (本時) 多様な動きをつくる運動 (遊び) では、運動に慣れたり、選んだりして楽しむ。 ・ バランスをとる運動 ・ 体を移動する運動 ・ 用具を操作する運動 ・ 力試しの運動 ・ 基本的な運動を組み合わせた運動											
三 次	評価規準	6 やりたい運動を選んで挑戦する。 ・これまでの活動を振り返り、動きを確かめたり、生活への生かし方を考えたりする。								1		ホ	
		A (1年) 体のバランスをとったり移動したりする動きを体験する。【技】	B (1年) 体のバランスをとったり移動したりする動きを体験する。【技】	C (2年) 教師と一対一で体を動かす動きを体験する。【技】	D (2年) 体のバランスをとったり移動したりする動きを体験する。【技】	E (3年) 教師と一対一で体を動かす動きを体験する。【技】	F (3年) 体のバランスをとったり移動したりする動きを体験する。【技】	G (4年) 教師と一対一で体を動かす動きを体験する。【技】	H (5年) 体のバランスをとったり移動したりする動きを体験する。【技】				

3 本 時（3／6）

(1) 目 標

用具の使い方や運動の行い方のきまりを守りながら、友達と仲よく運動したり、場の安全を確かめたりして、進んで運動に取り組むことができるようにする。

(2) 評価規準

A (1年)	B (1年)	C (2年)	D (2年)	E (3年)	F (3年)	G (4年)	H (5年)
順番やきまりを守りながら友達と仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりしている。 【態】	簡単なきまりを守りながら友達と仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりしている。 【態】	用具の使い方や簡単なきまりを守りながら友達と仲よく運動したり、場の安全を確かめようとしている。 【態】	順番やきまりを守りながら友達と仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりしている。 【態】	用具の使い方や運動の行い方のきまりを守りながら友達と仲よく運動したり、場の安全を確かめようとしている。 【態】	簡単なきまりを守りながら友達と仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりしている。 【態】	簡単なきまりを守りながら教師と一緒に運動しようとしている。 【態】	運動の行い方をきりながら進んだ運動したり、場の安全に気を付けたりしている。 【態】

(3) 指導に当たって

本時の学習では、ステーション方式で体ほぐしの運動を含めたいろいろな運動（遊び）に取り組むこととする。体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動（遊び）を体験することで、楽しみながら自分の心と体の一体感に気付いたり、様々な動きを身に付けたりすることができるようにする。そこで、導入では、前時までに学習してきた運動内容について振り返るとともに、学習のねらいや本時の流れを確認し、見通しをもって学習することができるようにする。展開では、体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動（遊び）に取り組む際に個やペア、グループなど活動形態を工夫することで、「気付き」「調整」「交流」のねらいを達成したり、体の基本的な動きを身に付けたりすることができるようにする。終末では、子供たちの気付きや感想を発表する場を設定し、体を動かす楽しさや心地よさに気付くことができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※ 評価規準

過程・時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	1 本時のねらいを知り、活動のめあてをもつ。 いろいろな動きに挑戦して、楽しく体を動かそう。	○ 前時までに学習してきた運動を想起させることで、体を十分に動かす楽しさや心地よさに触れることができるようにする。
挑戦する	2 ステーションごとに多様な運動（遊び）に挑戦する。 (1) 準備運動及び体ほぐしの運動(8分) ・ 腕を揺すってもらうと力が抜けてほつとするね。 ・ 友達と動きを合わせると、楽しくなるね。 (2) 体のバランスを取る運動(15分) ・ 上手にバランスを取りながら回ってみよう。 ・ 「せえの」と掛け声があるとうまく動きが合うね。 (3) 用具を操作する運動(15分) ・ 上に投げたボール（風船）を上手に取るにはボール（風船）をよく見ないといけないな。 ・ 的に向かって真っ直ぐ腕を振ると、ボールがねらったところに行くね。	○ 本時の学習で取り上げる運動について、内容を分類した板書を示し、どのような種類の運動を行っていくのか「すること」を提示することで、見通しをもちながら進んで活動ができるようにする。 ○ 体ほぐしの運動では、体への気付き、体の調整、仲間との交流にかかわる内容に取り組みながら、個に応じた声掛けをしたり、音楽を流したりすることで、子供たちが楽しみながら心と体をほぐすことができるようにする。
振り返る	3 整理運動 4 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ・ 力いっぱい体を動かすと気持ちいいね。 ・ いっぱい動いた後は、心臓がドキドキして、体も心も温かくなったよ。 体を動かすと気持ちがいいね。また、友達と一緒に運動したり、用具を使ったりすると楽しく運動できるぞ。 5 片付けをする。	○ いくつかの運動を各ステーションに取り入れるようにすることで、多様な動きを体験できるようにする。 ㊦ 個、ペア、グループなど活動形態を工夫することで、多様な動きをつくる運動（遊び）の内容がより効果的に行えるようにする。 ※ 用具の使い方や運動の行い方のきまりを守りながら、友達と仲よく運動したり場の安全を確かめたりして進んで運動に取り組んでいる。（観察）【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 体や心への気付きや仲間との交流の視点から、本時の学習を振り返ることで、気付いたことや感想を振り返り、全体場で発表することができるようにする。

日常生活の指導 学習指導案

授業 I

あさひ小学級 2 組 7 名 指導者 西俣 誠人

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 子供が意欲的に授業に参加して、活動の見通しをもつことができる内容であったか。
- 教師がファシリテーターとしての役割を果たしたことは、子供の対話活動を充実させる手立てとして有効であったか。

1 題 材 進んで楽しく活動しよう

2 題材について

(1) 題材について

本学級において、1 校時に「日常生活の指導」の時間を帯状に設定し、朝の会を中核に据え、下のような様々な指導を展開している。

本題材は、子供が朝の会をはじめとする様々な活動や役割を行う中で、学級の一員として大切な役割を果たすことから効力感を得たり、活動における自分の成長や上達から成就感や満足感を得たりするという点で、一日のスタートの 1 校時に設定できる題材といえる。また、毎日一定時間にほぼ同じような活動を繰り返し行うので、子供は自分の課題をより理解しやすくなり、その課題に取り組むことにより様々な力を獲得していくことができる。

例えば、子供は、日にちや天気、毎日黒板に書かれた教師からのメッセージ（モーニングメッセージ）を読む活動を行っている。次に、大型カレンダーで昨日までの行事を振り返ったり、その日の数日後に控えている活動に見通しをもったりすることができる。さらに、カレンダー学習では「おととい」「きのう」「きょう」「あした」「あさって」「しあさって」のカードを貼ることで、時系列的な感覚を身に付けたり、日にちの用語を理解したりすることができる。他にも、挨拶の仕方や言葉遣いを身に付けること、集団での決まりを守ること、当番活動における自分の役割を果たすこと、身辺処理ができるようになることなど、様々な力を身に付けていくことができる。

このように、みんなで生き生きと楽しく活動することにより、主体的に活動し、共に学び合い関わり合う中で、基本的生活習慣の定着を図ることにもつながるものと考ええる。

(2) 子供について

子供は、この題材における活動や役割を繰り返し行う中で、各自の目標を一つずつ解決している。この題材における子供の現段階での主な目標は次のとおりである。

児童 (学年)	個人目標	児童 (学年)	個人目標
A (2年)	○ みんなと一緒に各活動に参加することができる。 ○ 集中して、意欲的に活動に取り組むことができる。	E (4年)	○ 見通しをもって、時間内に各活動を行うことができる。 ○ 相手を意識してモーニングメッセージを読むことができる。
B (2年)	○ 意欲的に活動に参加し、最後までやり遂げることができる。 ○ 見通しをもって、当番活動を丁寧にやり遂げることができる。	F (5年)	○ 友達の考えを聞いて、自分の行動を調整することができる。 ○ 状況に応じて、声量や言葉遣いを使い分けすることができる。
C (3年)	○ 友達と分担・協力して、各活動を行うことができる。 ○ 句読点や文節に気を付けてモーニングメッセージを読み、内容を理解することができる。	G (6年)	○ 友達と一緒に協力して、各活動を行うことができる。 ○ 文章の内容を理解し、句読点に気を付けてモーニングメッセージを読むことができる。
D (4年)	○ 積極的に活動に参加し、集団の中で自分の役割を果たすことができる。 ○ 自分の意思を適切に表現し、活動に参加することができる。		

(3) 指導について

子供が各自の課題を解決できるように、繰り返しの活動を設定すると共に、機会を見つけて称賛を十分に行うようにする。また、「対話的な学び」を通して、相手に教えたり教えてもらったりしながら様々な活動を協力して最後までやり遂げることができるようにする。

3 年間目標

- (1) 楽しい雰囲気の中で活動することにより、学級の一員としての役割を果たす喜びをもつとともに、今日一日やこれからの生活に楽しみや見通しをもつことができるようにする。
- (2) 当番活動の役割を決めたり、活動への取組の充実を図ったりすることができるようにする。
- (3) 場面に応じた挨拶や、他者とのやりとりができるようにする。
- (4) 文字・文章・数・音楽に親しみ、関心をもつことができるようにする。
- (5) 時間や時刻が分かり、「今日、明日、明後日、昨日、一昨日、今週、先週、来週」などの時を表す言葉が分かり、時系列的な感覚を身に付けることができるようにする。
- (6) 話す、聞く、読むなどの学習の基礎を身に付けることができるようにする。

4 本時の展開

[] 子供の意識 ○指導の手立て ※評価規準

時間	主な学習活動	指導の手立て
20	1 朝の会をする。 (1) 朝の挨拶をする。 (2) 健康観察をする。 () ・ 元気よく返事をするぞ。 ・ ○○君の手の上げ方は上手だな。僕もきれいに手を上げるぞ。 (3) 今月の歌を歌う。 () ・ 元気よく歌を歌うぞ。 ・ 歌をみんなで歌うと楽しいな。	○ 立つ姿勢や声の大きさ等の言葉掛けをすることで、正しい挨拶をすることができるようにする。 ○ 教師から子供の実態に応じた声掛けをすることで、対話への意欲を育てることができるようにする。 ○ 教師自らが大きな声で表情豊かに歌うことで、子供も笑顔で元気に歌うことができるようにする。 ※ 笑顔で元気よく歌っている。 ○ 実際に活動をしている自分の写真を使うことで、見通しをもって意欲的に当番活動に取り組むことができるようにする。 ○ 2人でする当番活動を設定し、教師が助言することで、友達と協力して活動を進めることができるようにする。 ※ 自分の役割を理解し、進んで当番活動に取り組んでいる。
25	3 モーニングメッセージを読む。 () ・ 今日(きょう)は5月18日金曜日だ。 ・ 今日の天気(てんき)は○○だ。 ・ 友達(ともだち)を見て元気(げんき)な声(こゑ)で読むぞ。 4 大型カレンダー(おおいなカレンダー)で一日(いちにち)の見通し(けんつうし)をもつ。 () ・ 今日(きょう)は何(なに)をする(する)のかな。 ・ 来週(らいしゅう)は何(なに)をする(する)のかな。 ・ 今日(きょう)も一日(いちにち)頑張(がんば)ろう。 5 友達(ともだち)のよいところ(よいところ)を発表(はっぴやう)する。(ほめほめタイム) () ・ 友達(ともだち)がいつも頑張(がんば)っているところ(ところ)を見付け(みつけ)るぞ。 ・ 友達(ともだち)が喜んで(よろこんで)くれるといい(いい)な。 6 次の学習(がくしゅう)の開始時刻(かいしじく)を確認(かくにん)する。	㊦ 子供(こども)一人一人(ひとりひとり)がモーニングメッセージ(モーニングメッセージ)を読む時間(じかん)を設定(せってい)することで、読む力(ちから)や聞く力(ちから)を身に付けることができるようにする。 ※ 正(ただ)しく音読(おんよみ)したり文章(ぶんしょう)の内容(ないよう)を理解(りかい)したりしている。 ○ 時(とき)を表(あらわ)す言葉(ことば)のカード(カード)を貼(貼)り、行事(ぎぎ)等(とう)と併せて読む活動(かつどう)を行うことで、月(つき)や週(しゅう)の見通し(けんつうし)をもつことができるようにする。 ※ 一週間(いっしゅうかん)やその月(そのつき)の予定(よてい)など、活動(かつどう)に見通し(けんつうし)をもっている。 ○ 予告(よこ)しておくことで、友達(ともだち)の頑張(がんば)りやよさに気付(きづ)くことができるようにする。 ※ 友達(ともだち)の頑張(がんば)りやよいところ(よいところ)を進(すす)んで発表(はっぴやう)している。 ○ 時計(でけい)を使って全員(ぜんいん)で時刻(じきく)を確認(かくにん)することで、次の学習(がくしゅう)開始時刻(かいしじく)を確認(かくにん)することができるようにする。 ※ 次の時(とき)の学習(がくしゅう)の準備(じゅんび)をしている。

日常生活の指導 学習指導案

授業 I

あさひ子学級 4 組 6 名 指導者 南 恵子

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 子供が意欲的に授業に参加して、活動の見通しをもつことができる内容であったか。
- 「対話的な学び」を設定したことは、相手を意識して発表したり、言葉の力を育んだりする手立てとして有効であったか。

1 題 材 進んで楽しく活動しよう

2 題材について

(1) 題材について

本学級においては、1 校時に「日常生活の指導」の時間を帯状に設定し、朝の会を中核に据え、次のような様々な指導を展開している。

本題材は、子供が朝の会をはじめとする様々な活動や役割を行う中で、学級の一員として大切な役割を果たすことから効力感を感じたり、活動における自分の成長や上達から成就感や満足感を得たりするという点で、一日のスタートの 1 校時に設定できる格好の題材といえる。また、毎日、一定時間にほぼ同じような活動を繰り返し行うので、子供は自分の課題をより理解しやすくなり、その課題に取り組むことによって様々な力を獲得することができる。

例えば、子供は、日にちや天気、毎日黒板に書かれた教師からのメッセージ（モーニングメッセージ）を読む活動を行っている。次に、大型カレンダーで昨日までの行事を振り返ったり、その日や数日後に控えている活動に見通しをもったりすることができる。さらに、カレンダー学習では時を表す言葉のカードを貼ることで、時系列的な感覚を身に付けたり、日にちの用語を理解したりすることができる。他にも、挨拶の仕方や言葉遣いを身に付けること、集団での決まりを守ること、当番活動における自分の役割を果たすこと、身辺処理ができるようになることなど、様々な力を身に付けていくことができる。このように、みんなで生き生きと楽しく活動することにより、主体的に活動し、共に学び合い関わり合う中で、基本的生活習慣の定着を図り、豊かに生きる力を育んでいくことにつながるものと考ええる。

(2) 子供について

子供は、この題材における活動や役割を繰り返し行う中で、各自の目標を一つずつ達成してきている。この題材における子供の現段階での主な目標は次のとおりである。

児童(学年)	個人目標
A(2 年)	○ 背筋を伸ばし、正しい姿勢で活動に参加することができる。 ○ 当番活動を最後まで集中して取り組むことができる。
B(3 年)	○ 見通しをもって、決められた時間内に当番活動を行うことができる。 ○ 教師の話を正しい姿勢で聞き、反応を示すことができる。
C(4 年)	○ 言葉を明瞭に話し、自信をもって発表することができる。 ○ 当番活動を意欲的に取り組むことができる。
D(4 年)	○ かかとを付け、両手をひざにおき、背筋を伸ばして椅子に座ることができる。 ○ 相手を意識しながら、挨拶したり発表したりすることができる。
E(4 年)	○ 正しい姿勢を保ちながら活動に参加することができる。 ○ 適切な速さと声の大きさとで音読したり発表したりすることができる。
F(6 年)	○ 教師や友達の話最後まで聞いて行動に移すことができる。 ○ 友達の反応から気持ちを読み取って、友達に関わるすることができる。

(3) 指導について

子供が各自の目標を達成できるように、繰り返しの活動を設定すると共に、称賛を十分行うようにする。また、「対話的な学び」を通して、相手に教えたり教えてもらったりさまざまな活動を協力して最後までやり遂げることができるようにする。

3 年間目標

- (1) 楽しい雰囲気の中で活動することにより、学級の一員としての役割を果たす喜びをもつとともに、今日一日やこれからの生活に楽しみや見通しをもつことができるようにする。

- (2) 当番活動の役割を決めたり、活動への取組の充実を図ったりすることができるようにする。
- (3) 場面に応じた挨拶や、他者とのやりとりができるようにする。
- (4) 文字・文章・数・音楽に親しみ、関心をもつことができるようにする。
- (5) 時間や時刻が分かり、「今日、明日、明後日、昨日、今週、来週、再来週、先週」などの時を表す言葉を分かることができるようにする。
- (6) 話す、聞くなどの学習の基礎を身に付けることができるようにする。

4 本時の展開

[] 子供の意識 ○指導の手立て ※評価規準

時間	主な学習活動	指導の手立て
20	1 朝の会をする。 (1) 朝の挨拶をする。 (2) 健康観察をする。 () ・ 元気よく挨拶をするぞ。 ・ ○○くんは大きな声だな。僕も大きな声で挨拶や返事をするぞ。 (3) 今月の歌を歌う。 () ・ 笑顔で歌うと楽しいな。 ・ 先生のように大きな声で歌うぞ。 2 今日の当番活動を確認して、自分の当番活動をする。 () ・ 当番活動を最後まで丁寧に頑張るぞ。 ・ 当番活動が終わったから、先生に「終わりました。」と伝えよう。 ・ 友達の当番活動を手伝おう。	○ 「大きな声で『はい』と返事をしようね。」等の言葉掛けをすることで、名前を呼ばれたらはっきりと返事ができるようにする。 ○ 正しい座り方のポイントを示すことで、Eが正しい姿勢でいられるようにする。 ○ 子供と教師の言葉のやりとりをすることができるように、健康観察を行う。 ※ よい姿勢で挨拶をしたり、言葉のやりとりをしたりしている。 ○ 教師自らが、大きな声で表情豊かに歌うことで、子供も大きな声と笑顔で歌うことができるようにする。 ※ 大きな声と笑顔で歌っている。 ○ 活動の様子の写真と活動内容を文字で表したカードを用いることで、子どもが自分で選んで当番活動を進めることができるようにする。 ○ 当番活動の仕方を教え合うことで、どのように仕事をすればよいか子供が気付くことができるようにする。 ○ 当番活動の時間や内容を詳しく示すことで、BやCが見通しをもって当番活動に取り組めるようにする。 ○ 当番活動が終了した際は、教師に終わりを伝え、称賛を受けることで、活動終了の達成感をもつことができるようにする。 ※ 進んで当番活動に取り組んでいる。
25	3 モーニングメッセージを読む。 () ・ 今日は4月18日水曜日だ。 ・ 今日の天気は○○だ。 ・ 間違えないで読めるかな。 ・ 大きな声で元気に読むぞ。 4 大型カレンダーや時間割表で一日の見通しをもつ。 () ・ 今日一日頑張ろう。 ・ 今日はどんな活動があるかな。 ・ 今日はどんな授業があるかな。 5 友達のよいところを発表する。(ほめほめタイム) 6 次の学習の開始時刻を確認する。	言 子供一人一人がモーニングメッセージ読む時間を設定することで、今日の日付などを理解できるようにする。 ○ 助詞に印をつけたり、読み仮名をふったりすることで、AやBが音読することができるようにする。 ○ 友達に体を向けて、音読することができるように助言することで、Fが相手を意識して音読することができるようにする。 ※ 正しく音読したり内容を理解したりしている。 ○ 子供同士で教え合いながら、時を表す言葉のカードを貼る活動を行うことで、今日の予定や一週間の見通しをもつことができるようにする。 ※ 「きょう」「あした」「今週」「来週」などのカードを所定の場所に貼ることができる。 ○ 日直の日々の様子や本時での頑張りを想起させることで、DやFが友達のよさに気付くことができるようにする。 ○ 模型時計を準備することで、次の学習開始時刻を確認できるようにする。 ※ 次時の学習の準備をしている。

日常生活の指導 学習指導案

授業 I

あさひこ学級 6 組 7 名 指導者 上唐湊 武

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 子供が意欲的に授業に参加して、活動の見通しをもつことができる内容であったか。
- 「対話的な学び」を設定したことは、相手に適切に意思を伝えたり、相手の意思に上手く応えたりすることの手立てとして有効であったか。

1 題 材 進んで楽しく活動しよう

2 題材について

(1) 題材について

本学級においては、1 校時に「日常生活の指導」の時間を帯状に設定し、朝の会を中核に据え、下記のような様々な指導を展開している。

本題材は、子供が朝の会をはじめとする様々な活動を行う中で、学級の一員として大切な役割を果たすことから効力感を感じたり、活動における自分の成長や上達から成就感や満足感を得たりするという点で、一日のスタートの 1 校時に設定できる格好の題材といえる。また、毎日、一定時間にほぼ同じような活動を繰り返し行うので、子供は自分の課題をより理解しやすくなり、その課題に取り組むことにより様々な力を獲得していくことができる。

例えば、子供は日にち、天気や毎日黒板に書かれた教師からのメッセージ（モーニングメッセージ）を読む活動を行っている。その後、大型カレンダーで昨日までの行事を振り返ったり、その日や数日後に控えている活動への見通しをもったりすることができる。また、カレンダー学習では「おととい」「きのう」「きょう」「あした」「あさって」「しあさって」のカードを貼ることで、子供は時系列的な感覚を身に付けたり、日にちの用語を理解したりすることができる。他にも、挨拶の仕方や言葉遣いを身に付けること、集団での決まりを学ぶこと、当番活動における自分の役割を果たすこと、身辺処理ができるようになることなど、様々な力を身に付けていくことができる。そして、子供はみんなで生き生きと楽しく活動することにより、主体的に活動し、共に学び合い関わり合う中で、基本的生活習慣の定着を図り、豊かに生きる力を育んでいくことにつながるものと考えられる。

(2) 子供について

子供は、この題材における活動や役割を繰り返し行う中で、各自の課題を一つずつ解決している。この題材における子供の現段階での主な課題は次の通りである。

児童(学年)	個人目標
A(1 年)	○ 席に座り一定時間集中して課題に取り組むことができる。 ○ 平仮名の拾い読みをすることができる。
B(1 年)	○ 教師や友だちの話を最後まで聞いて、行動に移すことができる。 ○ 平仮名の拾い読みをすることができる。
C(3 年)	○ 名前を呼ばれたら大きな声で返事をするすることができる。 ○ 友達と一緒に最後まで当番活動をやり遂げることができる。
D(4 年)	○ 見通しをもって、当番活動を最後までやり遂げることができる。 ○ モーニングメッセージを一斉読みして、内容を理解することができる。
E(5 年)	○ 拗音・促音に気を付けながらモーニングメッセージを一斉読みすることができる。 ○ 友達の反応から気持ちを読み取って、関わるることができる。
F(6 年)	○ 朝の歌を大きな声で元気よく歌うことができる。 ○ 下学年に優しく丁寧に当番活動の仕方を教えることができる。
G(6 年)	○ 下学年に当番活動の進め方を教えながら、一緒に活動をするすることができる。 ○ 平仮名や漢字で書かれたモーニングメッセージを文節ごとに読むことができる。

(3) 指導について

子供が各自の課題を解決できるように、繰り返しの活動を設定すると共に、称賛を十分に行うようにする。また、「対話的な学び」を通して、相手に教えたり教えてもらったりしながら様々な活動を協力して最後までやり遂げることができるようにする。

3 年間目標

- (1) 楽しい雰囲気の中で活動することにより、学級の一員としての役割を果たす喜びをもつとともに、今日一日やこれからの生活に楽しみや見通しをもつことができるようにする。
- (2) 割り当ての当番活動を進んで果たしたり、活動への取組の充実を図ったりすることができるようにする。
- (3) 場面に応じた挨拶や、他者とのやりとりができるようにする。
- (4) 文字・文章・数・音楽に親しみ、関心をもつことができるようにする。
- (5) 時間や時刻が分かり、「今日、明日、明後日、昨日、今週、来週、再来週、先週」などの時を表す言葉を分かることができるようにする。
- (6) 話す、聞くなどの学習の基礎を身に付けることができるようにする。

4 本時の展開

[] 子供の意識 ○指導の手立て ※評価規準

時間	主な学習活動	指導の手立て
20	1 朝の会をする。 (1) 朝の挨拶をする。 (・ 元気よく挨拶をするぞ。 ・ 友達と握手をするぞ。) (2) 健康観察をする。 (3) 今月の歌を歌う。 (・ 歌を歌うのは、楽しいね。 ・ 先生のように歌うぞ。 ・ 今日は何の楽器を使おうかな。)	○ 「大きな声で『はい』と返事をしよう。」等の言葉掛けをすることで、名前を呼ばれたらはっきりと返事ができるようにする。 ※ よい姿勢で挨拶をしたり、言葉のやりとりをしたりしている。 ○ 教師自らが、大きな声で歌うことで、子供も大きな声と笑顔で歌うことができるようにする。 ※ 大きな声と笑顔で歌っている。
	2 今日の当番活動を確認して、自分の当番活動をする。 (・ 当番活動を最後まで頑張ろう。 ・ 当番活動が終わったから、先生に「終わりました。」と伝えよう。)	○ 活動の様子を撮った写真と活動内容を文字で表したカードを用いることで、子供自らが当番活動を進めることができるようする。 ○ 子供同士で活動の仕方を教え合うことで、当番活動がスムーズに終わるようにする。 ※ 進んで当番活動に取り組んでいる。
25	3 モーニングメッセージを読む。 (・ 今日5月18日金曜日だ。 ・ 間違えないで読めるかな。 ・ 大きな声で元気に読むぞ。) 4 大型カレンダーや時間割表で一日の見通しをもつ。 (・ 今日一日頑張ろう。 ・ 今日は帰る時刻が早かったな。 ・ 来週は何があるのかな。) 5 集中タイムで各自の課題をする。 (・ 昨日の日記をみんなに聞きやすいように読むぞ。 ・ 金曜日は、算数タイムだな。 ・ ここが分からないから、先生に聞いてみよう。) 6 次時の学習の開始時刻を確認して、準備をする。	① 子供一人一人がモーニングメッセージを読む時間を設定することで、今日の日付などを理解できるようにする。 ※ 正しく音読したり内容を理解したりしている。 ○ 時を表す言葉のカードを貼って、時間割を確認する活動を設定することで、今日の予定や一週間の楽しみや見通しをもつことができるようする。 ※ 「きょう」「あした」などのカードを所定の場所に貼っている。 ○ 各自の実態にあった学習内容を設定することで、全員が集中して学習できるようにする。 ※ 自分の課題に落ち着いて取り組んでいる。 ○ 模型時計を準備し、開始時刻を表す活動を設定することで、次の学習開始時刻を確認できるようにする。 ※ 次時の学習の準備をしている。